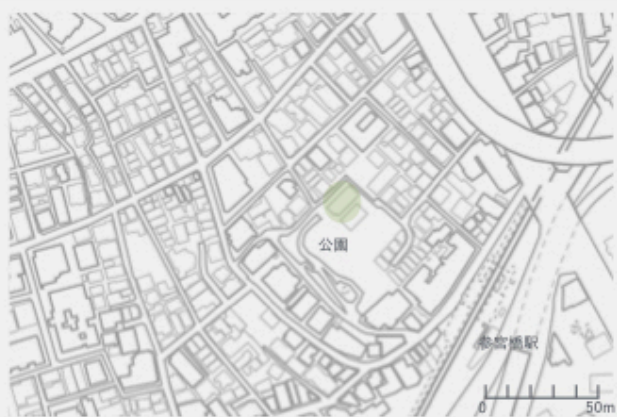


結末によりそう家。 — 変化する居場所 —

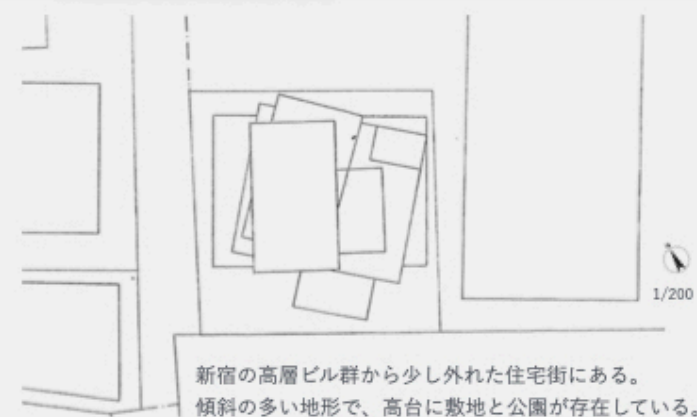
本にも、私たちの日々にも
パッドエンドやハッピーエンドがある
部屋の用途を人で決めるのではなく
人がその瞬間の心に合わせて決める
そうすることで、
本と日々の結末によりそう空間を提供する

これからの住まいは、国内産業の活性化や、画一的な量産型住宅ではない、多様性のある住まいづくりが重要である。
そこで、国産材の格子棚壁を規格化することで施工や普及を容易にし、輸送エネルギーを抑える。
また、空間が人によりそう住まいは、心にゆとりができ、人は人によりそえるようになる。外からの優しさや刺激を受け入れ、内からのあたたかさを地域や社会に送り出す「循環のハブ」となる。
この住まいは、環境にも人にも優しい連鎖を巡らせる。

— 敷地 —



— 配置図兼屋根伏図 —



— 建築概要 —

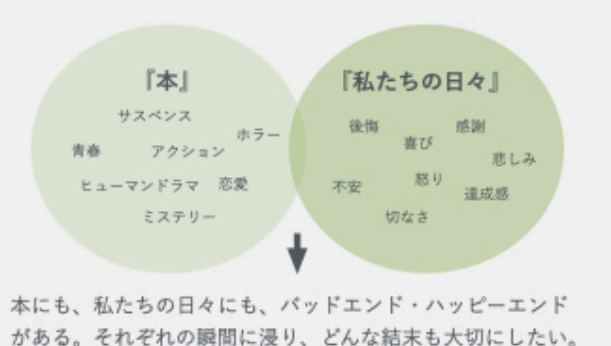
所在地：渋谷区代々木4丁目3-16
用途地域：第2種低層住居専用地域準防火地域
建築面積：76.435㎡
延べ床面積：122.435㎡
容積率：93.92%
建物高さ：12m
建ぺい率：58.63%
構造種別：木造

— クライアント —

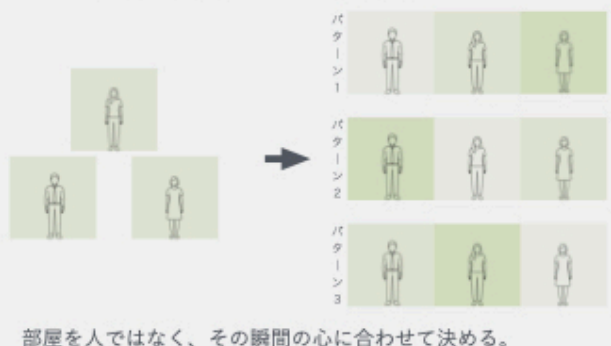
父：図書館司書（55歳）
ミステリー、ホラーの本が好き。観葉植物を育てている。
母：児童館職員（53歳）
仕事の影響で絵本が好きになった。趣味は家事。
娘：大学生（22歳）
インドア。内気な性格。寝ることが好きで趣味。



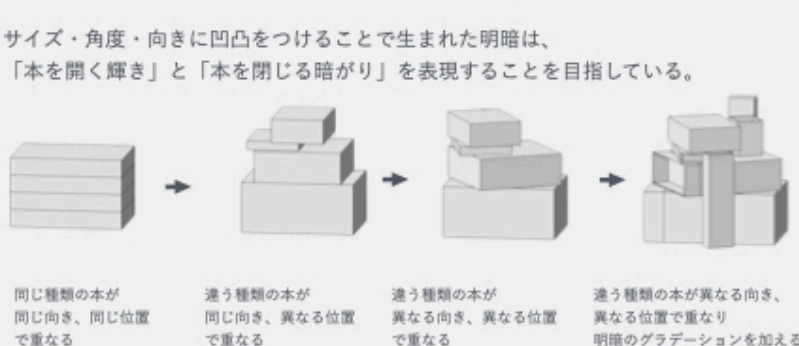
— コンセプト I 本と日々の共通点 —



— コンセプト II 部屋を選ぶ —



— 設計プロセス I 本の輝きと暗がり —



東立面図

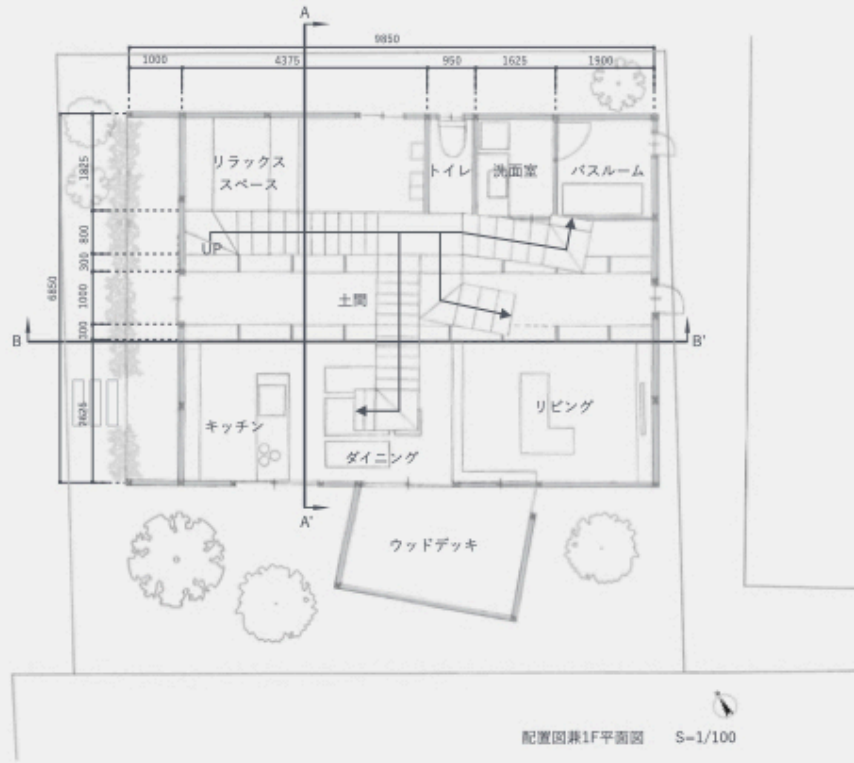
南立面図

北立面図

西立面図

S-1/150

— 1F —

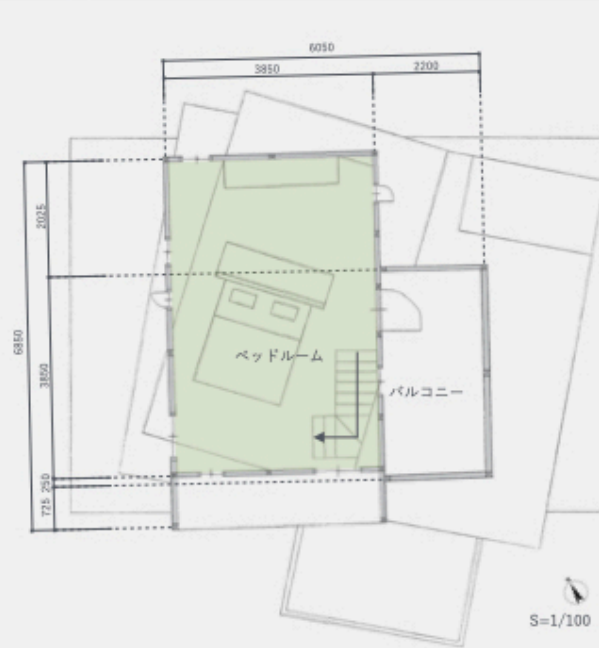


玄関から真っ直ぐに続く空間には、天井までのびる格子を設置。左右に広がる暗がりと明るみの境界をぼかす役割を果たしている。リビングは土間のようなつくりにし、外と内を接続する役割になっている。1番陽が差し込むダイニングは、デッキと繋げ陽だまりの中で家族団楽の時間が過ごせるよう、吹き抜けを生かし開放感を追求した。階段横にはリラックススペースを設け、多様な居場所の選択肢を提案する。

— 2F/2.5F —



— 3F —



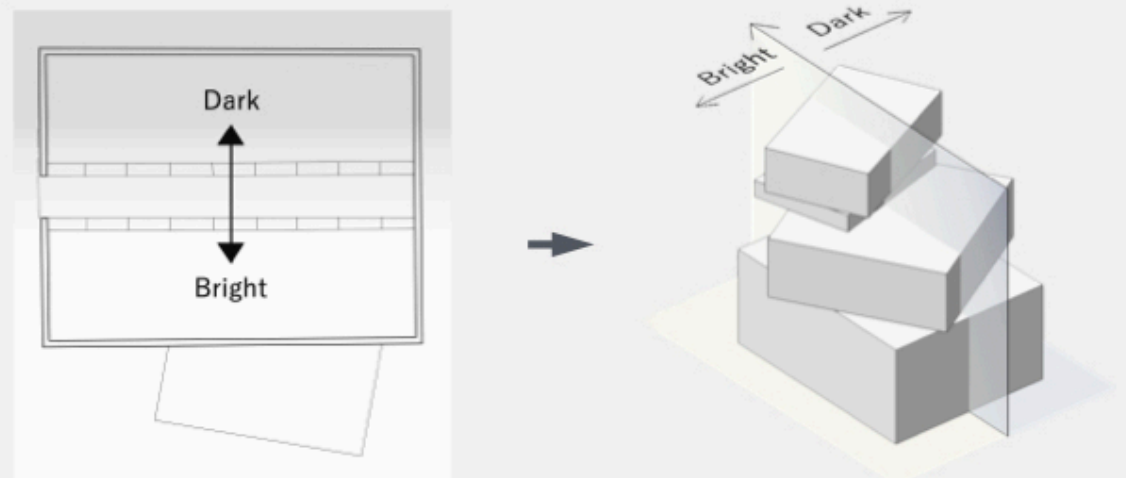
2つのBOXが生み出す面は寝る前に本を読んだり、ふと考え事ができる。一方窪みは、衣類や雑貨の収納場所として活用できる。明暗のグラデーションの中間地点として、暖かい光と影が作る暗がり存在している。その日1日の出来事、物語に浸りまた次の日もこの空間で浸る。いずれここはリセットの場となる。

結末を巡る



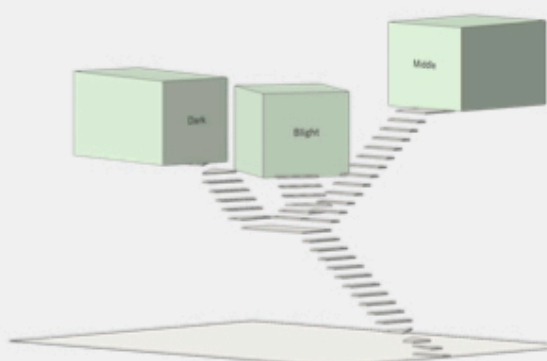
ワークスペースは室内側壁面に開口を設けることで、柔らかい自然光が差し込み、外の景色とつながる。作業の間も閉塞感を感じさせない、抜け感のある空間。一息つきたい時には、部屋の淵に座ることもできる。1番暗い空間で、他の部屋には無い落ち着きと静けさを感じることができる。ブックストレージ。高い位置に窓を設け、淡い光が差し込むつくりになっている。本に囲まれた部屋で思う存分本を読み、そのまま眠る第2のベッドルームとして使用できる。

— 設計プロセスII 閉と開のグラデーション —



「暗く閉鎖的な空間」と「明るく開放的な空間」を内装・外装、共に北側から南側にグラデーションになるように構成。中間地点として、寝室を睡眠というリセットの場とし、下の2つのボックスと分離させその日1日の思いを今日に閉じ込める空間とした。

— 設計プロセスIII 結末へ進む —



廊下を減らし、階段で空間を繋ぐことで、それぞれの空間の役割を明白にしている。物語を歩み、それぞれの結末へ進んで行く。暗く閉鎖的な空間は、スリルを味わったり、誰にも見られたくない姿でいることに浸る。明るく開放的な空間は、家族団らん的时间を過ごしたり、陽だまりでくつろぎ、穏やかな気持ちに浸る。

